

2-1 施工手順

2-2 設置方法 (24頁)

2-3 ユニットの接続 (25頁)

1. 表示設定ユニット・増設ユニット… 25頁
2. 異種系統ユニット… 26頁
3. パルス出力ユニット… 26頁
4. 増設アドレスの設定… 26頁

2-4 ネットワークの接続方法 (27頁)

1. ネットワーク諸設定… 27頁
2. ネットワーク配線の接続方法… 27頁 (2線式・4線式)

2-5 電圧入力接続 (28頁)

1. 単相2線式… 28頁
2. 単相3線式(1)… 28頁
3. 単相3線式(2)… 29頁
4. 三相3線式… 29頁
5. 三相4線式… 30頁

2-6 CT・パルス入力ケーブルの接続 (30頁)

1. 50~600A CT… 30頁
2. /5A CT, 5A CT… 31頁
3. CT内蔵ブレーカ… 32頁
4. パルス入力… 32頁

2-2 設置方法

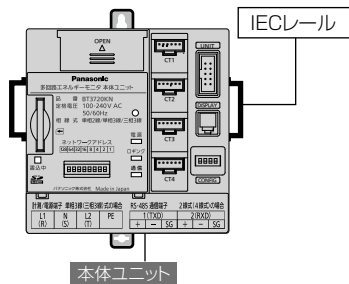
以下のいずれかの方法でお取り付けください。

ご注意

・強磁界のある箇所に設置する場合、または/5A CT, 5A CTを別のCTの2段目CTとしてご使用の場合、設置箇所にご注意ください。(31頁をご参照ください。)

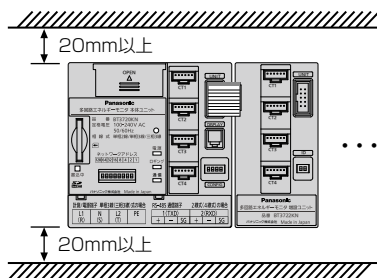
IECレールへの取り付け・取り外し

●IECレールへ取り付け図

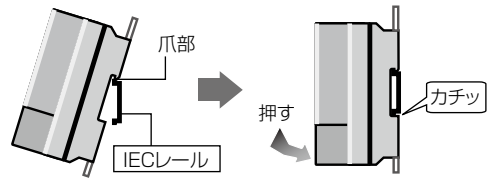


ご注意

・ユニットの上下は、20mm以上の間隔を空けて設置してください。(バックアップ用電池の交換やシリアルNo.確認などメンテナンス時の作業性確保のため。)



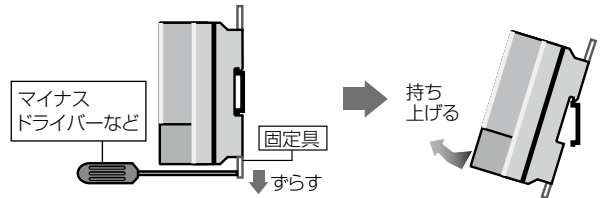
■ユニットの取り付け



各ユニットの底面爪部をIECレールに引っ掛けてください。

カチッと音がするまではめ込んでください。

■ユニットの取り外し

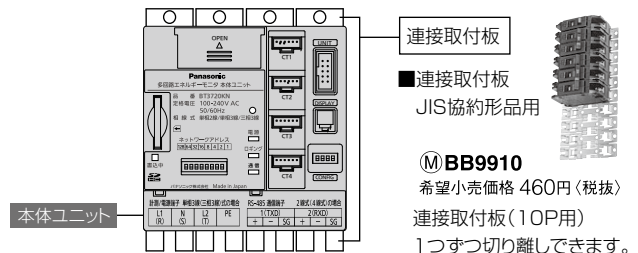


各ユニットの底面固定具をマイナスドライバーなどで下方にすらすらしてください。

そのまま上方に持ち上げて取り外してください。

接続取付板への取り付け・取り外し

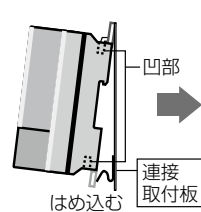
●接続取付板への取り付け図



■接続取付板
JIS協約形品用

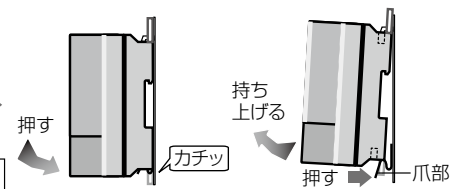
●BB9910
希望小売価格 460円(税抜)
接続取付板(10P用)
1つずつ切り離しできます。

■ユニットの取り付け



各ユニットの側面凹部を接続取付板にはめ込んでください。

■ユニットの取り外し

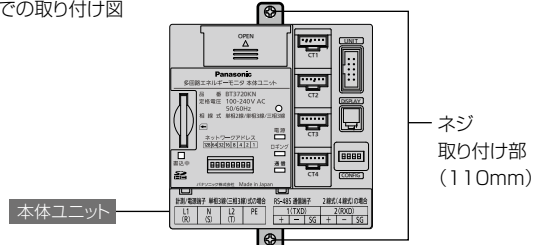


カチッと音がするまではめ込んでください。

接続取付板の爪部を押ししたまま、各ユニットを持ち上げて取り外してください。

ネジでの取り付け

●ネジでの取り付け図



■ユニットの取り付け



各ユニットの固定具をネジ(M4)にて固定してください。

ご注意

・落下の危険がないように、しっかりと固定してください。

2-2 設置方法

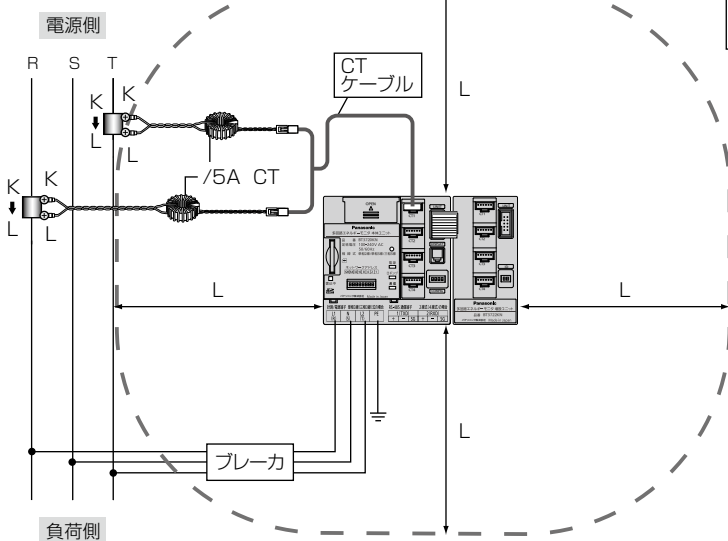
設置時の注意事項

600A CTをご使用の場合、
/5A CTを別のCTと組み合わせた2段目としてご使用の場合、多回路エネルギーモニター設置時は下記にご注意ください。

600A CTをご使用の場合、または初段CTの定格電流を「600A」以上に設定する場合、計測箇所電流部が強磁界と想定されるため計測仕様の許容誤差範囲を超えることがあります。強磁界対策のため、下表に従い多回路エネルギーモニターと計測箇所電源部を離して設置してください。

初段CTの定格電流設定(600A CTの場合)		600A (600A CT設定)	750A	1000A	1500A	2000A	5000A	8000A	10000A	20000A	30000A
多回路エネルギーモニターと計測箇所電源部との必要距離：L ※注1)	600A CT使用時 (BT37066KN)	10cm 以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	/5A CT使用時 (BT3705WH) ※注2)		10cm 以上			30cm 以上	50cm 以上	70cm 以上	1.2m 以上	2.0m 以上	

※注1) CT定格電流値=計測箇所の最大電流値の場合。
※注2) CTケーブル長さが10m以上の場合は、必ず品番末尾「WH」のCTケーブルとセットでご使用ください。



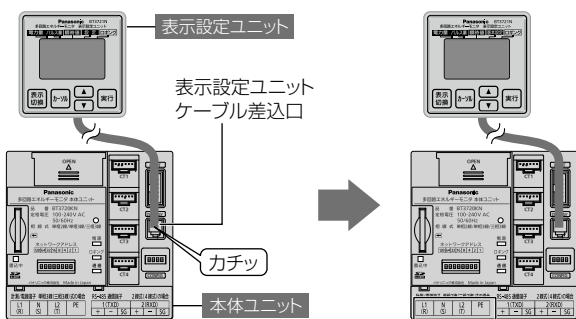
CTケーブル配線時のご注意
天井裏を通して配線する場合は、フレキシ管を通すなど「ケーブル保護対策」をしてください。(障害物や他のケーブルなどにより断線のおそれがあります)

ご注意
CTのリード線やCTケーブルについても高圧部大電流部に近づかないよう結束バンドなどで固定してください。

2-3 ユニットの接続

表示設定ユニットの接続

以下の手順に従って、表示設定ユニットを接続してください。
・表示設定ユニットの使い方は33頁をご参照ください。



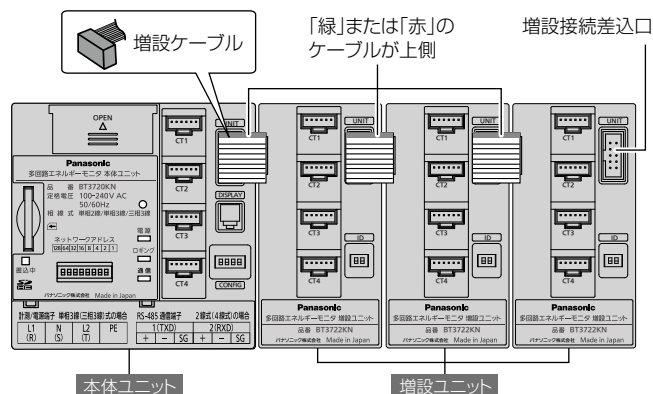
- 表示設定ユニットケーブル差込口にカチッと音がするまで差し込んでください。(奥まで確実に差し込んでください。)
- 計測電源端子に電源を印加して(電圧をかけて)ください。

ご注意
・表示設定ユニットは本体ユニット・三相4線ユニットのみ接続できます。
・表示設定ユニットの裏面にはマグネットが装備されていますので、盤などの鋼板に取り付けることができます。

増設ユニットの接続

増設ユニットを接続する際は、増設ケーブルを接続差込口の奥まで確実に差し込んでください。本体ユニットには、増設ユニット、異種系統ユニット、パルス出力ユニットの組み合わせで最大3台まで増設できます。

●本体ユニットに増設ユニット3台を接続した例



概要編

モニター
多回路エネルギー

施工編

エネルギー
S

商品編

デマンド
ウォッチャー

商品編

LAN対応
ユニット

商品編

電カメーター

商品編

システム編

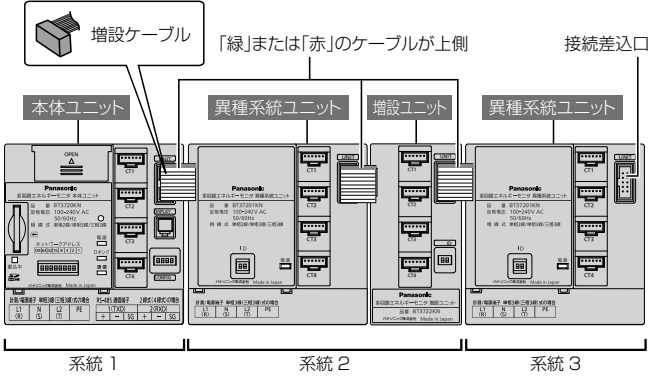
付録

2-3 ユニットの接続

異種システムユニットの接続

異種システムユニットを接続する際は、増設ケーブルを接続差込口の奥まで確実に差し込んでください。
本体ユニットには、増設ユニット、異種システムユニット、パルス出力ユニットの組み合わせで最大3台まで増設できます。

●本体ユニットに異種システムユニット2台・増設ユニット1台を接続した例

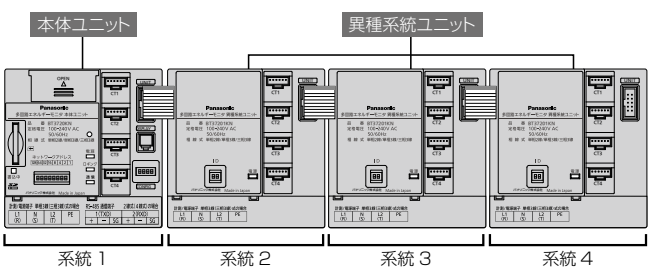
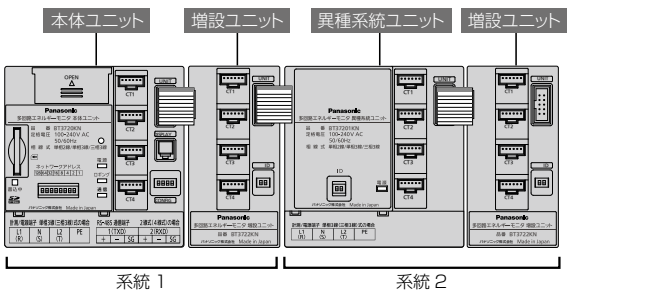
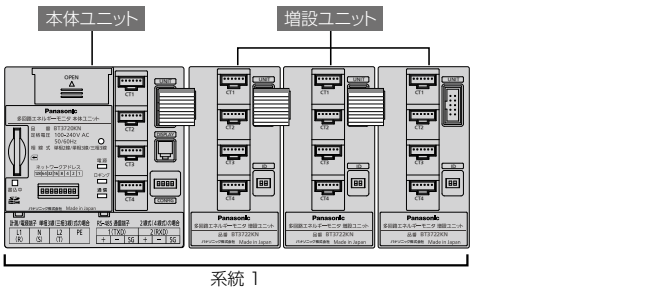


・本体ユニットは、増設ユニットと異種システムユニットを混在して使用できます。

＜接続ルール＞

- ・増設ユニットと異種システムユニット合わせて最大3台まで接続できます。
- ・増設ユニットは、その増設ケーブルを接続した本体ユニットまたは異種システムユニットの電圧で電力測定します。
- ・異種システムユニットは、その増設ケーブルを接続したユニットの電圧とは関係なく、その計測電源端子に入力された電圧で電力測定します。

●代表的な構成例



ご注意

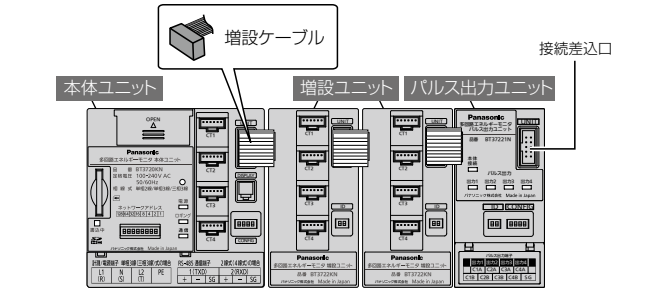
・システムとは、ひとつの電源(通常ひとつのトランス)から送られてくる電気配線系統のことです。詳細は23頁をご覧ください。
異種システムユニットの電源は必ず計測する電源から接続してください。

パルス出力ユニットの接続

パルス出力ユニットを接続する際は、増設ケーブルを接続差込口に奥まで確実に差し込んでください。

本体ユニットには、増設ユニット、異種システムユニット、パルス出力ユニットの組み合わせで最大3台まで増設できます。

(下図は本体ユニットにパルス出力ユニット1台・増設ユニット2台を接続した例を示します)



・本体ユニット BT3720KN には、パルス出力ユニット BT37221N が接続できます。(詳細は143頁)

増設アドレスの設定

増設ユニット・異種システムユニットのアドレス設定は、下図を参考に同一の設定がないよう行ってください。

●増設アドレスの設定方法の例

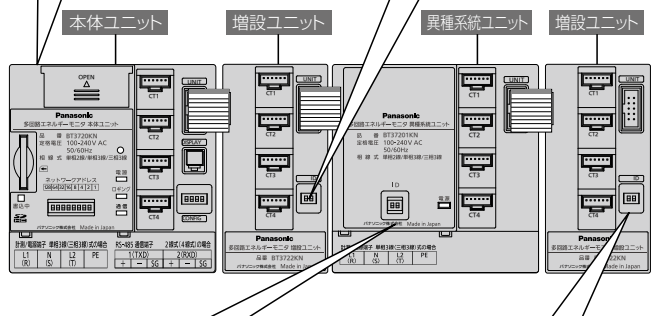
- ・アドレス設定は、増設アドレス設定スイッチの設定で決定します。ユニットの種類や接続順番とは関係ありません。

本体ユニットのアドレス設定はありません。
本体ユニット(固定)

CTケーブル差込口	表示設定ユニット対応回路No.
CT 1	回路No.1
CT 2	回路No.2
CT 3	回路No.3
CT 4	回路No.4

増設アドレス設定スイッチ

CTケーブル差込口	表示設定ユニット対応回路No.
CT 1	回路No.5
CT 2	回路No.6
CT 3	回路No.7
CT 4	回路No.8



増設アドレス設定スイッチ

CTケーブル差込口	表示設定ユニット対応回路No.
CT 1	回路No.9
CT 2	回路No.10
CT 3	回路No.11
CT 4	回路No.12

増設アドレス設定スイッチ

CTケーブル差込口	表示設定ユニット対応回路No.
CT 1	回路No.13
CT 2	回路No.14
CT 3	回路No.15
CT 4	回路No.16

ご注意

・増設アドレスの設定は、本体ユニットの電源を切った状態で行ってください。電源を入れた状態で設定しても、設定は認識されません。(増設アドレスを変更する場合も同様です。)

概要編
モニター
多回路エネルギー
施工編
エネルギーS
商品編
デマンド
ユニット
LAN対応
商品編
電力メーター
商品編
システム編
付録